

1 教育目標

- 名古屋市学校教育の努力目標について（令和5年度）

ともに学び、自分らしく生きる

- ・ 主体的・対話的な深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ・ 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようにするため、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

- 本校の教育目標

豊かな心をもつ生徒の育成

- (1) 話合いや学び合いを通して互いに高め合おうとする生徒
- (2) 他を思いやる豊かな心をもった生徒
- (3) 強い心と健康な体をもつたくましい生徒

2 学校努力点と推進計画

- (1) 努力点主題

自他共に認め合うことができる生徒の育成

- (2) 主題設定について

本校では、学校行事や生徒会活動などで主体的に取り組む生徒の姿が見られる。しかし、主体的に考えて行動できる生徒とそうでない生徒の意識に差があり、「互いに認め合おう」とすることには課題が見られる。そのため、努力点を「自他共に認め合うことができる生徒の育成」とし、学校が安心・安全で幸せな場所であり、生徒同士が互いに関わり合い、認め合い、支え合う授業や学級づくりを目指している。

互いに認め合うためには、自分を肯定的に認めていることや、他者の良さを認めていること、安心が保証された集団で、判断し、行動できることが大切である。そのため、昨年度は規範意識の向上に取り組み、「安心が保障された集団」の構築を目指した。各学年で学年の実態に合った取組をすることで、ねらった規範意識を伸ばすとともに、教師の見立てと生徒の意識に見られた差が縮まった。ただ、学年全体での取組であったため、各学級や生徒個々の主体的な取組については弱い部分があった。

自他共に認め合うため、また主体性を育むためには、自ら目標を設定し取り組み、その取組を振り返り、次へいかすことが大切である。そのため、今年度は教師・生徒共に自ら目標を設定し取り組む活動を取り入れることで、「自他共に認め合うことができる生徒の育成」を目指したい。

(3) 目指す生徒像

① 学 級

- 相手の良さを見付け、認め合う中で、人間関係を築くことができる生徒
- 自分の良さをいかし仲間と共に、目標に向かい高め合う生徒

② 教 科

- 授業に真剣に取り組む生徒
- 基礎的・基本的な学力を身に付け、「主体的に考え続ける」生徒
- 自分の良さを発揮しようとする生徒
- 他の考えや取り組みの良さに気付くことのできる生徒
- 互いに協力して課題に取り組むことができる生徒

③ 特別活動

- 行事に熱中し、全力を出しきることができる生徒
- クラスや級友を大切にしようとする生徒
- 集団の中での自分の役割を自覚し、共に高め合い、楽しめる生徒

④ 進路・総合的な学習の時間

- 自分を知り、自分の良さに気付くことができる生徒
- 体験や他の生き方を学び、自分の生き方に結び付け、より良い生き方を考えることができる生徒
- 自分の夢や目標をもって他と高め合いながら、目標達成に向け努力できる生徒

⑤ 生活・道徳

- 互いに挨拶ができ、コミュニケーションを高め合える生徒
- 規範意識がありルールを守り、経験をいかしながら秩序ある学校生活ができる生徒
- 互いに違いを認め合い、相手を思いやる豊かな心をもつ生徒
- 辛いことや苦しいことに負けず忍耐強く、たくましい心をもつ生徒
- 謝罪し、反省する人の過ちを許す寛容な心をもつ生徒

(4) 生徒・保護者・地域への発信

南光中職員・5つの努力

- 明確なビジョン（活動の目標）をもって指導にあたります
- 時間を守る、自ら進んで挨拶をするなど、基本的な社会的スキルを身に付けさせます。
- 忘れ物をしない、宿題や家庭学習に取り組むなど、学習習慣の基礎を身に付けさせます。
- 適切に誉め・しかるとともに、「いいこと」「いけないこと」の理由を真剣に考えさせ、健全な心を育てます。
- 保護者・地域との連携・情報交換を大切にします。

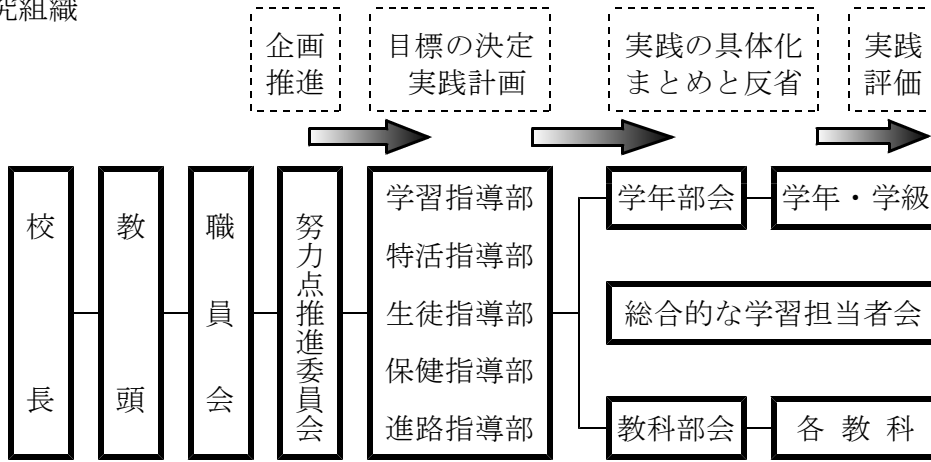
※1 学習の基礎・基本的な知識を定着させるために必要なこと

「授業に真剣に取り組む、課題や宿題に取り組む期限内に提出する、家庭学習に取り組む、自分なりの目標設定をする、自身の学習状況を振り返り改善する」などの事柄

※2 社会に出て行くために必要なこと

「忘れ物をしない、提出物を期限内に出す、気持ちの良い挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、正しい言葉遣いをする」などの事柄

(5) 研究組織



(6) 研究計画

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 4月 実態把握、推進計画の立案 | 10月 第2次授業研究の実践と分析 |
| 5月 教科等別研究の計画 | 12月 授業研究のまとめと考察 |
| 6月 第1次授業研究の実践 | 1月 研究のまとめ |
| 7月 第1次授業研究の分析 | 2月 実践の最終まとめ |
| 8月 教科等別の中間まとめ | 3月 本年度のまとめと次年度の計画 |
| 9月 中間報告・第2次授業研究の計画 | |

(7) 努力点取組の具体化

① 「規範意識が身に付いている状態」の定義や「規範意識が身に付いている状態」を図るためのチェックシートを努力点推進委員会で作成するとともに、各教科・領域・学年での取組を具体化する。

<教科> 9教科、道徳 <教科外> 特別支援、特活指導、総合的な学習、進路指導
<学年> 3学年

※ 4月末までに各部会等で話し合い共通理解を図る。

② 実践計画の立案

・ 年間の実践計画を立てる。

※ 学期ごとに各部会等で話し合い共通理解を図る。

③ 実践

・ 現職教育で、指導方法について学び、実践にいかす。

・ 各学期、チェックシートに取り組み、現職教育で指導方法や工夫、生徒の反応、成果と課題などを話し合う。

④ アンケート（今年度から来年度へ向けて）

・ 保護者、生徒、教職員にアンケートを実施

・ 主題についての検討（生徒の実態や今年度の実践から）

⑤ まとめ

○ 中間まとめ（取組の経過と今後の課題についての話し合い）

・ 指導計画に基づいた実践の経過

・ 実践の成果と課題

○ 最終まとめ（学校評価と今年度の成果と課題についての話し合い）